

## 平成 29 年度 第 61 回日本読書学会大会プログラム

日程：2017 年 7 月 30 日（日） 10：00～18：30

〈10:00～〉受付

〈10:30～12:00〉個人研究発表

第一会場（603 号室） / 第二会場（604 号室）

〈12:10～13:40〉理事会（603 号室）

〈13:50～14:20〉総会（604 号室）

〈14:20～14:40〉表彰式（604 号室）

〈14:50～16:20〉個人研究発表

第一会場（603 号室） / 第二会場（604 号室）

〈17:00～18:30〉懇親会（502 号室）

※懇親会は研究情報交換会と交流親睦の会にしたいと思います。多くの方のご参加をお待ち申し上げます。

場所：林野会館（東京都文京区大塚 3 丁目 28 番 7 号 電話 03-3945-6871）

\* 地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅から徒歩 7 分、筑波大学附属小学校正門近く

<http://rinyakaikan.or.jp/index.html>

参加費（要旨集代込）：会員 3000 円、非会員 3500 円、学生 2000 円

懇親会費：2000 円

\*いずれも当日のみ受付いたします。

プログラム： \*20分発表、10分質疑応答

〈10:30~12:00〉個人研究発表

第一会場【603号室】 司会：甲斐雄一郎（筑波大学）・藤木大介（広島大学）

①Eメールの好ましき要因の検討

—書き手の視点から—

菊池理紗（法政大学大学院）

②大正期から昭和前期にかけての文法教育の変容

—文の成分の取り扱いに着目して—

勘米良祐太（浜松学院大学）

③国語科におけるメディア・リテラシーの学力調査および評価問題の開発

砂川誠司（愛知教育大学）・富安慎吾（島根大学）・中井悠加（広島大学）

第二会場【604号室】 司会：秋田喜代美（東京大学）・上谷順三郎（鹿児島大学）

①1960年代の保育の言語活動における物語絵本の広がりとは

—素話・紙芝居の実践との比較による検討—

若林陽子（東京大学大学院）

②社会的行為としての絵本読み聞かせ

藤森裕治（信州大学）・吉永安里（國學院大學）

③パートナー読書 In2Books の探究的研究

足立幸子（新潟大学）

〈12:10~13:40〉理事会【603号室】

〈13:50~14:20〉総会【604号室】

〈14:20~14:40〉表彰式【604号室】

〈14:50~16:20〉個人研究発表

第一会場【603号室】 司会：岸学（東京学芸大学）・藤森裕治（信州大学）

①アサーション・トレーニングを活用した高校国語表現における単元のプログラム化

各務めぐみ（筑波大学大学院）

②看図説話をを用いた話し合い活動における児童の参加構造及び個々の能力の特徴に基づく指導法の提案

高阿田詩音（江戸川区立篠崎第四小）・梶井芳明（東京学芸大学）

③副詞習得並びにコミュニケーション力を促進させる授業の開発

山本晃（国立特別支援教育総合研究所）

第二会場【604号室】 司会：足立幸子（新潟大学）・深谷優子（東北大学）

①中学生と本とを結びつける学校図書館という場所

新居池津子（東京大学大学院）

②文学的文章の授業における教師のはたらきかけ

靄田あい（群馬大学大学院）

③読書課題とストーリー再現性との関連

小久保美子（新潟大学）

〈17:00~18:30〉懇親会【502号室】

\*大会参加費に「発表要旨集」の代金は含まれておりますが、さらにご希望の方には 1 部 2000 円で当日頒布いたします。なお、郵送をご希望の方は以下の事務局まで送付先などをお申し込みのうえ、送料込み 2500 円を学会の口座までお振り込み下さい。

日本読書学会事務局（大会関連のお問い合わせはこちらへ）

〒305-8572

茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学人間系教育学域 人文科教育学研究室 気付

日本読書学会事務局

Email : [jra.jimu@gmail.com](mailto:jra.jimu@gmail.com)

URL: <http://www.gakkai.ac/jra/>

郵便振替口座番号 : 00160-4-790648

郵便振替口座名称 : 日本読書学会

会場マップ 林野会館（旧全林野会館）



## 読書科学投稿へのお誘い

ただいま、「読書科学」編集委員会では皆様からの論文投稿を熱望しております。

テーマは読書活動のみならず、読む・書くといったディスコース全般、国語教育に関わるすべてのことが対象となり、間口は非常に広い学術雑誌です。また、基礎的な研究だけでなく、実践研究も大歓迎です。

**査読期間は約3週間**です。投稿してから1ヶ月足らずで査読結果がお手元に届きます。このタイミングは日本の査読誌では、群を抜いて早い対応といえます。また、きめ細かく査読をしていきます。

読書やディスコースに関するデータを持っているけれど、どこに出したらいいか迷っている方はどうぞ、お気軽に「読書科学」にご投稿下さい。また、そのような方が身近にいらっしゃる場合には投稿を勧めて下さい。

編集委員会は、皆様の研究を支え、日本における読書にまつわる研究の隆盛を図りたいと希望しています。

投稿の手続きの詳細に関しては、「日本読書学会」の「雑誌「読書科学」」(<http://www.gakkai.ac/jra/journal/>)をご覧ください。

### ◎国際学会発表支援事業について

会員による国際学会発表に対して日本読書学会として支援する事業を本年度も募集します。支援内容は、海外渡航費の一部について、毎年度5名を限度として、一人最大10万円を上限として支援します。発表の様子は『読書科学』誌にて報告していただくこととなります。応募者の資格要件から年齢制限が撤廃されましたので、会員であればどなたでも応募できます。ぜひご活用いただきたいと思います。

詳しくは学会ホームページをご覧ください。